

南山城村高尾地区旧高尾小学校の再利用にみる地域再生の可能性

—高尾いろいろ茶論の設立と地域住民のかかわり—

京都精華大学人文学部 Oussouby SACKO
京都精華大学人文学部 中島勝住
京都精華大学大学院デザイン研究科 金尾優貴
京都精華大学人文学部 中山博志

1. 研究の背景・目的

本研究は、京都府相楽郡南山城村に位置する、廃校となった南山城村立高尾小学校(以下、旧高尾小学校)を対象に、廃校の再利用と地域再生の可能性を検討するものである。近年日本各地で進む地方の過疎化は、現在京都府で唯一の村となった南山城村でもみられる。総務省統計局が2010年に実施した国政調査では、南山城村の人口は3078人と、2005年に実施された同調査より11.19%減少している。これは1970年まで遡った過去40年の内、最も人口の多い年であった1995年の4024人から、946人減の23.51%減少となる。過疎化に伴い南山城村に設置されていた旧高尾小学校は2002年度をもって廃校となり、相楽東部広域連合立南山城小学校(以下、南山城村小学校)へと学校としての機能を移す事となった。廃校となった旧高尾小学校は1982年に竣工されてから20年しか経過しておらず、鉄筋コンクリート造りの校舎は廃校となる小学校としては比較的新しく利用可能な状態であった。¹⁾しかし校舎の中でも新しく建設された体育館以外は、新たな利用方法を見出す事が出来ないまま5年間放置されていた。その様な状況にあった旧高尾小学校と周辺地域だが、2007年頃から学校統廃合研究プロジェクト(通称、統合研)の働きかけにより地域活性化の場として動き始めている。主な取り組みとして、2010年に旧高尾小学校内図書室が図書貸し出しスペースのできる「高尾図書室」が開設された。また、新しく村外より高尾に移住された住民によるギャラリーの新設もあった。これらの試みは再活性化への初期段階の活動であり、2012年8月には1ヶ月に渡り旧高尾小学校にて様々なイベ

ントを開催するなど、今後に向けた様々な取り組みが検討された。だが、これらの取り組みが高尾の活性化へ繋がるものであるかどうかは一考の余地がある様に思える。現状として旧高尾小学校の明確な使用目的は無く、現在の取り組みが途切れれば今後別のプランによる再生、再興に向けた働きかけが行なわれる事が無いと言っても過言ではない状態にある。しかし、その様な状況下においても地域住民にとって最良となるプランであり、尚かつ持続可能なものでなければ、本当の意味での地域の再生と再興とは言えない。そこで本研究では、これまで、旧高尾小学校の再利用のキーとなっている旧図書室の再利用プロジェクトに参加し、書庫の増設、図書室のサロン化プロジェクトを観察してきた。また、小学校の再利用に対する地域住民の意識と姿勢を聞くアンケートによるプレ調査を実施し、「高尾図書室」から「高尾いろいろ茶論(サロン)」化した旧図書室の利用実態と関係者の聴取りから考察した。旧高尾小学校では2012年夏には旧高尾小学校も含む村全体でフェスが行われ、当年の8月11日には旧高尾小学校にて校舎内の教室での展示や、放送設備でのDJ、体育館や運動場でのライブ、地元の方のフード出店、服飾雑貨などのフリーマーケットを含む音楽・パフォーマンス・映像・美術のフェスティバルが催される。旧小学校に対する住民の意識と課題を整理するため、先述のイベントにも参加観察を行なった。



写真-1 南山城村高尾地区の様子
(撮影：ウスビ・サコ)

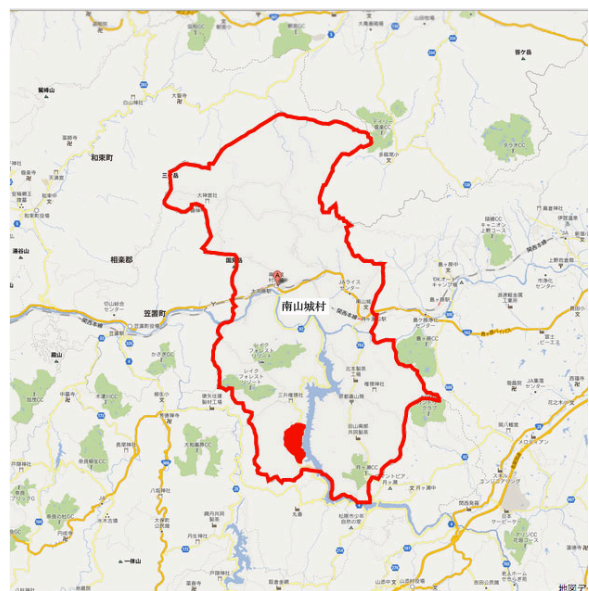


図-1 南山城村高尾地区
(出典：https://www.google.co.jp/maps/より加工した)

2. 調査対象地の概要

調査対象地である南山城村は 1955 年に高山村と大河原村の合併により発足した村である。奈良県、三重県、滋賀県と隣接する京都府下唯一の村であり、発足以来人口は 4000 人前後で推移し、2012 年 6 月 30 日現在 3165 人である。南山城村では地元の産業として、宇治茶、煎茶の銘産地として 171 戸の栽培農家が総面積約 279ha の茶園で栽培を行っている。これまで茶園の拡大整備、共同製茶工場による生産部門の近代化、農協での共同販売による一元集出荷体制の確立など、さまざまな取り組みを行っており、京都府内で年間生産されている約 3000 トンのお茶(荒茶)の内、南山城村は二番目に多い生産量を占めている。南山城村は

田山、高尾、押原、奥田、本郷、今山、南大河原、野殿、童仙房、月ヶ瀬ニュータウン(月ヶ瀬ニュータウンは自治区)の 10 区からなる。村内には伊賀川と名張川が流れ合流した木津川の源流となっており、そこは夢弦峡と称されている。調査対象の旧高尾小学校に位置されている高尾地区は、村内でも人口が最も少なく、住宅、建物が少ない地区である。高尾地区(前頁の図-1、写真-1)は村内を通る国道 163 号線より南方へ位置しており、大きく離れている。本研究では、2012 年 5 月、現地への事前調査を行ない最初に感じたのが、村の状態がとても綺麗に保たれていたということである。綺麗に整えられた茶畑が広がり、農地として十分に使われていた。反面、村内を歩く中で村民の姿を



写真-2 旧高尾小学校校舎正面
(撮影：金尾優貴)



写真-3 高尾いろいろ茶論の入口
(撮影：ウスビ・サコ)

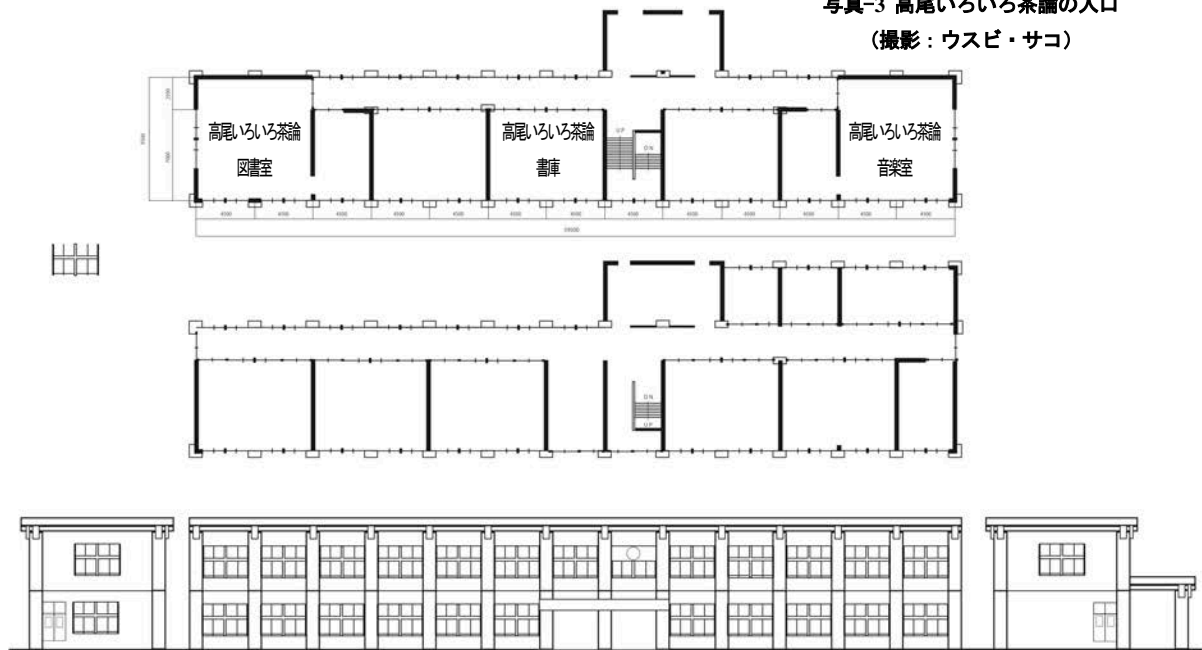


図-2 旧高尾小学校の平面(1、2階)・立面図

見かけることがほとんど無く、直接、聞き取りなどによる村民の声を聴くことはできなかった。そこで、アンケートを実施し、村の人々との関わりができるフェス等の参加に研究方法を決めた。

3. 旧高尾小学校の概要と変遷

南山城村にはこれまで田山、高尾、大河原、野殿童仙房の4つの小学校が存在していた。本研究が対象としている南山城村相楽郡高尾区は高尾小学校区に重なり、その他の学区はそれぞれ、田山区は田山小学校区、本郷、押原、奥田、今山、南大河原、月ヶ瀬ニュータウンの6区は大河原小学校区、野殿、童仙房の中間に両区を学区とする野殿童仙房小学校区が重なる。2002年に4つの小学校の内、3校（田山、高尾、大河原）が廃校となり、2003年4月には南山城小学校に統合し、2005年度には野殿童仙房小学校も廃校となり、2006年に統合、現在は一村一小学校となった。廃校となった4つの小学校の内、2つは比較的新しい鉄筋コンクリート造であり、旧高尾小学校（前頁の図-2、写真-2、写真-3）もその1つである。旧高尾小学校は1875年3月に現在地より高台の地蔵寺にて開校し、1877年に地蔵寺の敷地内に初代校舎が完成した。この校舎は現在地に転移して小学校として使用されることが無くなった後も、青年団、婦人会が会合等で使うなど公民館として機能し、その後、高尾聖愛保育園に生まれ変わる（現在は閉園、南山城保育園に統合）。保育園開園後も、夜は従来通り会合等に使用されたという。戦後すぐの1948年には、現在地に移転して二代目校舎が完成する。現存の校舎は三代目であり、1982年築である。残り2つの老朽する木造校舎については財政難の問題で取り壊し等費用捻出が困難なことからその活用方法が課題となり、跡地利用は手つかずの状態になっていた。最近では旧田山小学校では「は・ど・る」という、ものづくり施設として転用されていたり、鉄筋コンクリート造の旧高尾小学校でも旧図書室を地域の図書室として解放されたりしている。ⁱⁱⁱ



写真-4 高尾いろいろ茶論
(撮影：ウスビ・サコ)



写真-5 高尾小フェス
(撮影：金尾優貴)

4. 高尾区民の学校再生への意識調査結果の概要

高尾区民の旧小学校の再生や活用に対して、どのように思っているのか、またどのようにかかわれるのかについて、住民へのアンケート調査を行なった。調査方法は、ランダムに選択した住戸のポストに調査票を配布し、郵便で回収する形にした。アンケートは2012年の11月8日に配布し、12月20日までを期限に回収した。投函数は49で返信は12件である。回答者の概要として高齢者の方が多く、住んでいる期間も長い傾向にあった。旧高尾小学校の現状に通知しており利用したことのある者も12名中に10名で、利用した事の無い者も利用してみたいと思うとの回答だった。

使用されたことのある方の使用目的は普段使うという場ではなく、特別な行事で使われているとの回答がほとんどである。これは廃校になり何年も手付かずだったという理由の一つであろう。また自由記入で、旧高尾小学校でどのようなことが行なわれて欲しいのかを聞いた。意見の大半は高齢者の利用に対する要望であった。その他、村外からの利用や教育の場としての利用にも要望があった。廃校には求められているのは高齢者の福祉施設であったり村外からの利用であったりする。^{iv}

5. 高尾図書館から高尾いろいろ茶論（サロン）へ

旧高尾小学校が廃校になってから、そのまま放置され、ほとんど利用されなかった期間が数年にもわたっていた。そこで、前述の「統合研」が研究をはじめた2005当時、小学校の放置状況の改善と今後の利用の可能性を検討対象とした。研究グループは、旧校舎の一部を研究拠点にする構想を実現させたという。具体的には、地区住民有志との話し合い、本が読めて、映画会や講演会などのイベントも開催できる、コミュニティスペースとして「高尾図書室」を開設することにしたのである（写真4）。また月1回のペースで「高尾図書室だより」を発行し、地区住民への広報活動も研究会のメンバーが積極的に行った。この研究拠点は、南山城村全体の催しなどにも利用されるなど、地区活

性化の一端を担うことにもなったという。科研の報告書では、以下のように、図書室の運営と住民主体の空間としての移り変わりが述べられている。^v「運営の主体を地区住民に移していくため、地区運営ボランティアとの協議を重ねた結果、2011年9月から週2日開室にすることになり高尾地区のより積極的な関わりが実現することになった。そして、2012年3月をもって、研究拠点としての「高尾図書室」は、すべてが地区住民による運営に移行されることになった。その後、名称も「高尾いろいろ茶論」と改名、新たにスタートを切ったところである。なお、図書室の蔵書に関しては、南山城村民や「教育の境界研究会」有志からの寄贈などがあり、現時点で一万点を超える。」

名前	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
TM		22日						2日				
HM			1日					9日				
IS			8日					16日				
NE								23日				
ZM			22日					30日				
NS			29日						6日			
IS				5日					13日			
US				12日					20日			
IY				19日					27日			
TK				26日						4日		
IS					3日					11日		
AM					10日					18日		
NA					17日					25日		
HY					24日						1日	
HA					31日						8日	
FJ						7日					15日	
NM			15日								22日	
OH	11日	1日									29日	
NT	18日					28日						6日
SH	25日						5日					13日
KM						21日	12日					20日
WK		8日					19日					
ZK		15日					26日					

図-3 2014年の高尾いろいろ茶論の当番日数

本章では、「高尾図書室」から「高尾いろいろ茶論」へと名称を変更し、運営形態や活動内容と位置づけを変えてきた旧高尾小学校の図書室の、2011年1月から2014年12月までの利用実態と書籍の貸し出し記録をまとめた(図-4)。貸し出し図書の内容をみると、小説、生活関連、歴史関連、農業関連等の図書が最も多く、また、同じ図書が複数の利用者に渡っていることが分かる。そこで、住民の手による運営と管理、また住民主体の再利用になってから変化がどのくらいみられるかを考察した。結論から述べると、大きな変化が出ていないが、図書室の訪問目的は書籍の貸し出しだけでなく、当番が周りの友人等に声をかけて、世間話をしにくる傾向も伺える。住民は図書室という場を介して、少しでもお互いにコミュニケーションをはかり、旧来の人間関係の枠を超えて、新しい活動の関係がその場で実現できているようにも伺える。また、特に女性当番は、村の既存の生活から一時的であっても、離れることのきっかけになっているとインタビューなどでわかった。しかしな

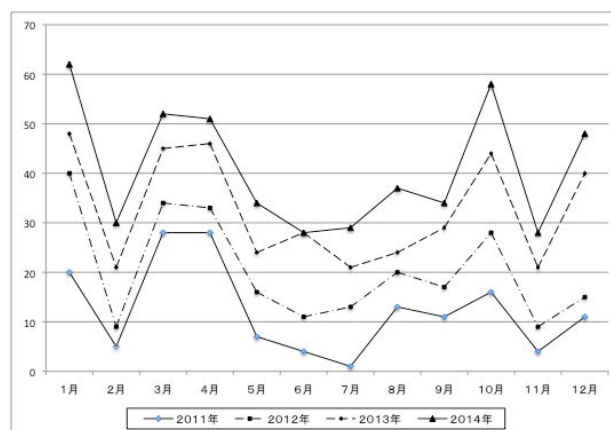


図-4 図書貸し出しの4年間比較

がら、旧小学校に対して、それ以上の負担がかかる活動を望んでいるかどうかと尋ねたら、多くの人は自分がしなければ、あっても良いと回答するが、積極的ではないことがわかる。小学校がなくなれば、村の学校との関わりや動機付けもほとんど消えてしまうことが本視察などを通して見えてきた。

6. まとめと今後の課題

これまで旧高尾小学校及びその周辺地区住民の調査・考察を述べてきたが、ここで今一度問い直したいのは、この小学校の管理・運営を行なっていく上での村民の意識の問題である。村に新しく移住した方が芸術を営んでおり、高尾地区の一部をアートスペースとしたい想いと廃校になった小学校が合致してイベントとして高尾小フェスは成立したが、今後も村の方が小学校を使っていくには疑問が残る。「高尾いろいろ茶論」は曜日等こそ決まっているが、スタッフを置き一般開放されていた。だが、そこを訪れ利用した村民は年に20人前後(スタッフ含め)である。つまり、この空間は村の再生・再興においては一つのツールとなりえるが、利用者を区民に限定するとこれ以上のびる見込みがなくなる。これから、旧高尾小学校が地域の建築ストックとして、中心的な役割を担うことができるかどうか、またその活用によって、地域の公共施設の統合がはかれるかどうかを調査しつづけることが重要である。

ⁱ 総務省統計局・政策統括官・統括研修所ホームページ

(<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/index.htm>) 2012/9/24

ⁱⁱ 【学校施設の複合化に関する研究(課題番号 (16530531))平成16年度～平成18年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書、平成19年3月30日発行

ⁱⁱⁱ 【学校施設の複合化に関する研究(課題番号 (16530531))平成16年度～平成18年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書、平成19年3月30日発行

^{iv} ウスビ・サコ「建築のリノベーションとコミュニティの再構築の可能性—南山城村高尾地区旧高尾小学校再利用プレ調査を通して」京都精華大学紀要第42号、2013年3月15日

^v 学校統廃合研究会(京都精華大学)「高尾図書室から高尾いろいろ茶論へ」2013年3月